城山エコミュージアム通信

令和2年（2020）8月15日　第38号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

地域の氏神様　川尻八幡宮

関東山地と平野が接する小高い場所に川尻八幡宮は在ります。参道はほぼ直線に約１kmに及び、丁度、境川と相模川の分水嶺となっています。貞享(じょうきょう）元年（１６８４）の絵図には立派な参道が描かれています。また、慶長８年（１６０３）「相州津久井之内河尻郷地詰水帳」になみ木の地名があり、この参道は徳川幕府が開かれる以前からあったと思われます。

八木蔦雨の著「城山夜話」に「その参道の両側に四間幅ぐらいの芝地がつづき、そこに松の大木がずらりと並んでいた。壮観だったに違いない。並木八幡の名はむろんこれによる。」とあるように、川尻八幡宮は並木八幡とも呼ばれていましたが、松は明治維新前後に伐採され、並木は無くなりました。伐採については諸説ありますが、この松４１本を明治９年に相模原の原清兵衛に売却したという証文が原宿の小儀家に残っています。

また、二の鳥居から見るとこの参道の一の鳥居の正面から雨水(うすい)と霜降(そうこう)の日に太陽が昇ることで有名で、毎年「雨水の日・霜降の日の日の出鑑賞会」が催されます。

雨水の日の日の出

＊八木　蔦雨
（やぎ　ちょううう）
明治29年10月28日、久保沢の商家“中西”に生まれ、幼名を登、のちに太郎左衛門を襲名した。大正10年頃より写真をはじめる。
俳人。蔦雨は雅号。
昭和57年没

主神は応神天皇。神社縁起によると創建は大永５年（１５２５）５月５日。（明治１８年の「皇国地誌」に記載）。今日まで伝わる本殿は宝暦１０年（１７６０）に再建されたこの地域で最も古い木造建築で、相模原市登録有形文化財（建造物）に指定されています。（非公開）

その他、境内には合祀令により明治４２年から４４年までに各地区から合祀された、春日神社（城北）、八坂神社（谷ケ原）、金刀比羅宮（小松）、天満宮（砂）、御嶽神社（本郷）、おしゃもじさま・社宮司（町屋）、稲荷神社（向原）、厳島神社（都畑）と、昭和２３年（１９４８）に移築合祀された不動明王（向原の高橋家浄光寺本尊）などがあります。春日神社本殿も相模原市登録有形文化財に指定されています。（非公開）

例大祭は８月２８日。神幸祭（神輿渡御）は、例大祭前の土曜日（第３または第４土曜日）に行われます。勇壮な応神、八坂、春日と呼ばれる三基の宮神輿の渡御と各地区のお囃子の競演は、かながわの祭り５０選に選ばれています。現在、令和７年（２０２５）創建５００年を迎える準備をされています。　（次ページに続く）

今回のトピック　■特集記事「川尻八幡宮」　■しろやまミニ図鑑「マムシグサ」
■活動報告「つどい」■城山検定　■疫病の今昔■インフォメーション（ツアーのお知らせ）

〈 川尻八幡宮古墳 〉

境内の北側には古墳時代終末期の半地下式の横穴式石室古墳があります。昭和3年に発行された「無良佐岐　二号（発行者：逸見敏刀）」の発掘当時の記事「穴を尋ねて」によると、出土品に直刀3、刀子2、鉄鏃30などとあり、発掘の様子をうかがうことができます。八幡宮がある一帯には100基ほどの横穴墓や遺跡（苦久保遺跡）が発見されていて、古くから重要な地であったことがわかります。

〈 パワースポット 〉

いにしえより祈りを捧げる場である境内には、樹齢 450 年を超えるホソバタブやあたかも天から降ってきた大蛇のように見えるヒサカキなど、パワーを貰える場所として注目されています。

（田畑　房枝）

参考：春林文化　第２号、第３号（城山地域史研究会）　城山町史４　６通史編　近世

久保沢こぼれ話・城山夜話（八木蔦雨著）

（城山町郷土研究会）

「令和元年度城山エコミュージアムのつどい」

日　時　　２月１６日（日）13：30～16：00

会　場　　城山総合事務所Ｂ会議室（旧城山公民館大会議室）

活動発表　昨年 10 月６日に実施した城山エコミュージアムツアー

「葉山島の歴史と自然」

～湘南村と呼ばれた昔を探して～

を発表しました。このツアーは、初めて途中で路線バスを利用しました。

講　演　「神になった植物たち～人の暮らしを支える植物～」

講師　冨田広氏　　東京都多摩教育事務所

内容　古代より人は植物と深い関わりを持って生活してきました。屋敷の鬼門（北東）に「厄払い」として植えられたエノキ。神の降臨を「待つ」というところから神格化されたマツ。門松は「神の依どころ」として一年間の幸や繁栄を祈願しました。正月飾り、どんど焼き、盆棚など、その生命力が神の依代とされるタケ。モモの霊力と節分との関わり、赤子の守り神で流し雛のように使われたハハコグサ。魔除けとしてのススキ。他にも多くの植物たちが神の依代として祭事、年中行事そして日々の生活の中でどの様な関りを持ち生活してきたのかを、具体的に大変分かりやすく話していただきました。

参加されたかたがたからは「植物と神の関りが面白く興味深かった」「神の依代、ご神木など日本文化と植物の関りに興味を持った」などの感想を頂きました。

一般の方 31 名、委員10名の参加により無事終えることが出来ました。

＊依代（よりしろ）・・・神霊が招き寄せられて乗り移るもの。樹木・岩石・人形などの有体物で、これを神霊のかわりに祀る

（金子　直美）

城山検定

問　題

谷ケ原の山頂に搭王様と呼ばれる祠があります。昔、田廻りに行った谷ケ原の住民が石塔を見つけ拾って持ち帰り、ご神体として山頂に祀ったと言われています。

名称は数ある塔の中の王という意味の「搭王」権現とし、祀った山の名前も「搭王山」と呼ばれるようになり、多くの人々に信仰されるようになりました。

この塔が多くの人々に信仰されたのは、どんな御利益があったからなのでしょうか？

次の中から選んで下さい。　　参考　城山夜話　第九話

答え　１　家内安全　　２　交通安全　　３　身体健全

解答は本誌のどこかにあります。

（宮崎　紀美子）

疫病の今昔

抑え込めるか　コロナウイルス

「あれよ、あれよ」という間に〈コロナの時代〉に入ってしまった。
歴史を紐解けば、今から 100 年前の「スペイン風邪」(1918～20 大正 7 年～9 年)が大流行した。国内では約 2380 万人が感染し 40 万人が亡くなったという。当時日本の人口は約 5700 万人であったから、つまり日本の人口の 2.4 人に一人が感染し、約 140 人に一人が亡くなった大流行だった。

当時の政府の感染拡大防止の対策は　○マスク着用　○うがいする　○室内の換気をする　○患者の隔離などで、「芝居・寄席・活動写真などに行かぬがよい」。「電車に乗らず歩け」などが提唱され、「学校の休校」「運動会中止」などが実施された。

さて、100 年後の今は ○三密を避けるために「イベント禁止」、○移動の自粛で「ステイ　ホーム」や、「テレワーク」「学校休校」となっている。

この対応は 100 年前から進歩しているだろうか。昭和初年（1930 年代）に電子顕微鏡が発明・実用化され、流行の元凶はウィルスであり、今回は（COVID―19）と命名された。今、このウィルスと世界中の研究者が取り組んでいるという。

私共は、100 年前と同じような注意点だが守って、研究者の成果を待つことにしよう。

スペイン風邪で亡くなった人をしのぶ碑

この地でも幾人もの人が風邪にかかり死亡した。その一人が川尻村の農業技術指導員片山一男さんである。この人は温厚な人で、村中の年寄りから子供まで、片山さん、片山さんと親しまれた。誰にでも話しかけて、農業の改良や肥料の与え方等を教えた。そんな風な人柄だったので、死後、片山さんをしのぶ村人の手により大正寺に御影石の碑が建てられた。

表に農業技術員片山一男君の碑
裏に大正九年三月　川尻村農業会役員外有志建
写真　大正寺境内にある片山一男君の碑　　（ 樋口　孝治）

マスクの着用

日本でのマスクの歴史は、明治初期に始まります。当時のマスクは、真ちゅうの金網を芯に　布地をフィルターとして取り付けたものです。主として粉塵よけに利用されていました。このマスクが、1918 年のインフルエンザ（スペイン風邪）大流行をキッカケに、予防品として注目を集めるようになりました。

昭和に入り、インフルエンザが再び猛威をふるった 1934（昭和 9）年に、マスクは大流行しました。以後、インフルエンザがはやるたびに、マスクの出荷量も爆発的に増加しました。

（一般社団法人日本衛生材料工業連合会ホームページより）

新型コロナウィルスの感染予防のためのマスク着用については、世界保健機関（WHO）は「症状のある人のみマスク着用を推奨」という立場をとっていましたが、2020 年 6 月 5 日、最新の知見を反映した指針を公表し、感染を予防できる根拠がないと健康な人の着用を奨励していなかった姿勢を改め、感染の広がっている地域の公共の場でのマスク着用を推奨しました。

信仰とアマビエ

アマビエの版画

コロナの蔓延と共に、今話題になっている「アマビエ」ってなに？

アマビエは日本に伝わる妖怪。 海中から光を輝かせるなどの現象を起こし、豊作、疫病などに関する予言をしたとされる。
「疫病よけに効果のある妖怪」と称されることから護符や御朱印にも採用された例もあり、コロナの感染拡大の終息などを願って多くの人たちの関心を集めているようです。

（宮崎　紀美子）

参照　フリー百科事典　Wikipedia

INFORMATION

【 城山エコミュージアムツアーのお知らせ 】

“半日コース”

テーマ：新・城山公民館周辺の史跡めぐり

（公民館周辺は古墳、横穴墓がある、古から祭りの地だったのか・・・）

日 時 ：
集 合 ：
定 員 ：
申込み・問
行程　城
か

今年度（令和２年度）の城山エコミュージアムツアーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、実施を中止することとなりました。

＊1 マスクの
＊2 当日、発熱等で体調が悪い場合は参加を見合わせて下さい。（受付で確認し、お断りする場合があります）
＊3 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては事業を中止する場合があります。

しろやま ミニ図鑑

マムシグサ
（サトイモ科）

左から芽、花、実

春になると野原や山裾に、変わった形の花を見かけます。蛇が鎌首をもたげたような形の「マムシグサ」です。雌雄異株で、雌株は秋に美しい赤い実を付けます。マムシグサは何年も生きる長生きの植物で、一生の間で雌雄が入れ替わります。若い頃はすべて雄株ですが、数年たち球根が大きくなると、実を作ることのできる雌株になります。ただ実を作るときかなりの栄養をつぎ込むので、小さい球根だった場合、翌年は雄株に戻ってしまうこともあるそうです。お母さんには”体力が必要”なのですね。

さて　この草を「マムシグサ」と呼ぶのは　どうしてでしょう？
たしかに　花の形は鎌首をもたげた蛇のようにも見えますし、赤い実には毒があるそうです。しかし名前の由来は茎の模様がマムシに似ているからだそうです。　（多羽田　啓子）

城山検定 解説

答え　＜正解は３　身体健全＞
ご神体として山頂に石塔を祀って以来、谷ケ原からは疫病の流行は無くなり、子供の熱さましには特にご利益があると参詣人も増えたそうです。（ご神体の石塔は、宝篋印塔（ほうきょういんとう）です。

編集後記

城山公民館の移転とコロナ禍が同時 というなか、令和２年度が始まりました。公民館事業、エコミュージアムの活動も制限されますが、できるだけのことはしていきたいと思います。

今回の通信では、度重なる疫病や災害にも負けずにたくましく生きた地域の人々の生活を想像しながら編集しました。　（田畑　房枝）

企画/作成：
相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会
発　行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見る時は
相模原市　城山エコミュージアム　→　検索

相模原市立城山公民館ホームページ　http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html